

全国一斉学力テスト…何が問題？

ちょうど例会当日の朝刊各紙に、全国一斉学力テストの結果について報道されていました。

「文部科学省は24日、全児童・生徒対象としては43年ぶりに実施した全国学力・学習状況調査（全国学力テスト）の結果を公表した。多くの児童・生徒は基礎的な知識を身に着けて、平均正答率は7～8割だったが、知識の活用力を問う問題の平均正答率は6～7割にとどまった」（毎日新聞10月25日）

- 全国各自治体の平均正答率があのように公表されてしまうと、下位の自治体は強い衝撃を受けますよね。大阪府教委の人が「極めて厳しい。考えられる限りのことはやってきたつもりだったが」とコメントしていた。
- 学力調査とともに学習状況調査、子どもの生活面の調査や学校長を対象とした学校調査もあった。学力と意味のある関連性を示すものはそれほど多くなくて、「就学援助を受けている子どもの多い学校の成績が低い傾向がある」とか、「家で宿題をするほうが点数が高い」とか、「朝食を毎日食べるほうが点数が高い」とか。
- 国立・私立が公立より平均正答率が約10～20ポイント高かったというが、それは当然でしょう。これでいったい何がわかったのか。今の時点でわかったことは、これまで文科省が抽出調査で行った様々な調査結果を上回るものではない。全国一斉に、全員を対象とした調査で、77億円もかけて、準備期間も入れたら100億近くの税金を使ってまでやる必要があったのか。文科省は比べる前例がないということで、深く分析する材料がないという。だから、今後も継続して全国学力テストを実施し、その積み重ねで分析をしていきたいというのが文科省の発表。どういう形でやるのか、質問内容をどうするのか、そういうのはまだ白紙の状態だと言っているが、同じようにやらないと比較できないから、また同じようにやるのではないか。
- 抽出調査以上の結果が出ていないのに、これだけの労力とお金を使って…。採点業務も事務処理も相当膨大な量で、結果発表も当初夏ごろまでにとっていたのが、ここまで遅れた。採点現場の混乱も相当あったようだ。
- 採点業務を委託されたのは、小学校はベネッセ、中学校はNTTデータという民間の採点業務実績のあるところ。採点現場には、先日問題になっていたグッドウィルなどの派遣会社から派遣されていた。記述式の回答の採点についてはどれを正解とするかで、その基準が非常に混乱したという。派遣労働者では正解にするかどうか

文部科学省は、『全国学力・学習状況調査の分析・活用の推進に関する専門化検討会議』を設置するとのこと。その第一回目は12月10日に開催されるそうです。

また、来年度は4月22日（火）に実施するということを、既に各自治体の教育委員会に通知しています。

そして、来年度の採点などの業務委託先は、小学校は今年と同じベネッセ（入札価格3億9900万円）、中学校は、内田洋行（3億4700万円）。学力テスト実施のための予算の概算要求額は約61億円。

判断できないので、担当者に何回も聞きに行って、でもその担当者も判断できなくて、その基準がコロコロ変わったとか。

- 学力テストの採点で得たデータを使うことはできないだろうけど、民間の会社にそういうデータが蓄積されていくかと思うと、ゾッとする。

先生たちが学力テストをどう受け止めているのか、聞いてみたい



- これから、テストを受けた子どもたちにはそれぞれ個票が返ってくるのだけれど、どんな形で返ってくるのだろうか。
- 問題用紙は回収されているから、個票が返ってきても、子どもたちは何が出来て、何が出来なかったのか、わからない。
- 現場で、子どもたちが何が苦手で、どんな問題があるかをきちんと分析しなければ、これだけお金をかけてやった意味がないということが、新聞に書かれていた。
- 学級ごとのデータも来ると思うけれど、解答用紙が戻ってくるわけではないので、一人ひとりの子どもがどこをどんなふうに間違えたのか、担任の先生にはわからない。考え方はあっているけれど、計算を間違えたのか、考え方から間違っているのか、わからない。だから学校で行うテストで先生が採点するのは 訳が違ふ。先生たちは毎日の蓄積があるのだから、どの子がどういうところが弱いのか、わかるはず。
- 学校の先生たちがこういうことをどう受け止めているのか、聞いてみたい。
- 懇談会で担任の先生に聞いてみたら？ このまま続けていくのだったら、いずれ当事者になるでしょ？
- 足立区で点数を取るために、色々やったでしょう。ああいうことをウチの学校でやってもらいたくない。
- 今回の学力テストで、文科省が公表したのは全国の都道府県の平均正答率。松戸市には市内の各小・中学校のデータが千葉県経由で届く。松戸市がその結果をどのように公表するかは松戸市に任されている。多くの市町村は、平均正答率も含めて結果公表することをためらっている。松戸市は、学校間の過度な競争を招かないような公表の仕方をすると言っている。

12月6日の松戸市議会で、学力テストの結果について学校教育部長が以下のように答弁しました。

- 学力向上プロジェクトチームをつくり、学力テストの結果を検討・分析している。
- 松戸市の平均正答率は、全国や千葉県と同程度であった。
- 無答率は低かった。個に応じたきめ細かな指導などをしてきた成果。
- 将来の夢を持っているなど、意欲のある子どもほど正答率が高い。
- 3Rsは身についているが、Responsibility（責任）に課題がある。
- 学力テストは学力把握のためのひとつの指標。今後も継続して

文科省は、自治体にもっと学力向上させろというような指示を出すんでしょうか？

- もともとは、文科省が小中学生の学力がどのくらいなのかを知るために実施したものなんですよ？ それがわかったら、文科省としてはそれぞれの自治体にもっと学力向上

させろというような指示を出すんでしょうか？ 悪かったところを重点的にあげるような教育をなさいますか。それとも、文科省は何の対策も出さずに、ただ状況を把握するためだけにやったということで、どうしていいかというのはそれぞれの学校現場が考えるようにということなんでしょうか。

- 国の教育施策にどう反映するかということは文科省が考えるでしょう。例えば沖縄県の平均正答率が低かったけど、それはどういう原因があるのかを調べ、何らかの対策を講じるというようなことするのではないかな。あるいは、今 中教審で検討している次期学習指導要領の内容に、今回の結果を反映させていくことも考えられる。そういうことのために実施したと文科省は言っています。各自治体については、それぞれが主体的な取り組みをしてくださいということ。表立って国が自治体へ「こうなさい」とは言わないと思う。建前として、地方分権への流れに逆行するから。
- 決して表立ってはやらないけど、文科省の意向に沿って地方はやらなくちゃならない。
- 今回の調査内容を見ると、文科省がどこに力を入れようと思っているのかが察知できてしまう。
- 文科省の分析の中で、「学校に行く前に持ち物を確認する児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる」とか、「家の人と学校での出来事について話をする児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる」とか、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる」とか、「学校のきまり・規則を守っている児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られる」というようなことが書かれている。
- 教育基本法改定とつながっている！
- そういう流れだと思った。結局、『徳育』はもっとやったほうがいいということになってしまう！

文科省は、全国一斉学力テストの結果と同時に、課題と指導改善のポイントも公表しています。

小学校国語の課題では、例えば、「話し方に関する知識(聞き手の反応を確かめながら話すこと)や聞き方に関する知識(要点をメモに取りながら聞くこと)の理解に課題がある」とし、その指導改善として、「聞き手の反応を見て調整しながら話したり、話の要点のメモを取りながら聞いたりするなどの具体的な言語活動を取り入れ、これを通じて、話すこと・聞くことに関する知識・技能を定着させる指導の充実を図る」ということをあげています。

こうした文科省の分析を受けて、学校現場は動いていくのでしょうか。

今回の学力テストで心配なのは、先生がまた追い込まれていくのではないかとということ

- 教育の一番根っこにあるのは子どもと親でしょう。本当に、PTAの力を付けたいと思う。今回のことが、わが子にもかわりのあることとして認識し、そこから声を上げていけるようにしたいけれど、どうしたらいいだろう？
- 「学校・先生はそんなことするはずない」「教育委員会は子どもに悪いことはしない」と思っている親は多い。
- 学校の言うことに反対しないという親も多いかもしれないけれど、一方で学校不信・教師不信の親も結構いるでしょう？ 学力テストを導入する時に、「学校の質・教師の指

導の質を高めるために使っていく」という言い方もされていた。松戸市の第三次実施計画（素案）では、学力テストの全国平均正答率が一つの数値目標になっている。そういう目標を達成するために色々な取り組みがされて、もし達成できなかったらどうなるのか。その学校の努力が足りなかったとか、先生の指導が悪いのではないとか、そういう批判につながっていくのではないか。「こういう数値目標がもてはやされるというのは、根底に親・市民の学校や教師への不信があるから」ということを佐藤学さんが指摘していた。先生と親がきちんと向き合って話ができていると、不信を払拭するために、きちっとした数値で結果を出していくことが求められると。担任の先生がこういうやり方でこういう努力をしているというようなことが親に見えていれば、学力テストの結果が悪かったとしても、先生批判につながることはないだろう。大変だけれども先生と親のコミュニケーションを図って、互いの信頼関係があるところでは、こんな数値が一人歩きすることはない。

- だからPTAで自分の子どもたちのことを考えるという基本的な姿勢がないところでは、こうした数値目標が一人歩きし、それを達成するためにおかしな努力を強いられることになる。
- 今回の学力テストで心配なのは、先生がまた追い込まれていくのではないかということ。既にいろいろな数値目標があって、子どもに向かうところじゃない労力をいっぱい使わされている。コミュニケーションをとるのが苦手な先生に限って、その数値目標のために子どもに押し付けたり、スパルタみたいになってみたり…。
- こういう話をお母さん方がいっぱい聞いて、こんな弊害があるのだということがわからないと、どうしても「うちの子何点だったんだろう?」とか「何番目にいるんだろう」とか、そういうふうになってしまう。自分の子がこんなにいいところいっぱいあるんだと思っていても、テストの結果だけを見てしまうと、「何?これ もっと勉強しなさい」と思ってしまう。教育の結果はすぐに出るものではなく、何年後かに出てくるもの。「目先のことだけを考えないでね」ということをわかってもらわないと。

子どもにとっては今も大事



- 教育というのは何年後かに結果が出るかものだけれど、子どもにとっては今も大事。4月24日に全国一斉学力テストが実施されるにあたって、入学式の日まで使って、中学3年生の子どもたちが勉強をさせられている。そういう例もある。東京都は区の学力テストもあって、都の学力テストもあって、それに全国の学力テスト、高校受験のための業者テストもあって、全くテスト漬け。楽しくイキイキと生活しながら、いろいろな力を身につけていく時期なのに、そんな毎日がこんなふうでは!
- 子どもは意外と冷めていて、それほど学力テストを重視していない。淡々としている。学習状況調査だって、こんな答えが求められているんだろうなと思って答えているのではない。子どもは捨てたもんじゃない。
- 学力テストの弊害はいろいろあるけれど、結局みんなが学力を高めれば問題はない。学力の低い子どもが多いから、問題。
- 日本の子どもたちは世界的に見てもそれほど学力が低くはない。文科省があおっている。

- でも、以前から言われているけれど、学力の二極分化は進んでいると思う。学力の低い層が増えている。それは家庭的な背景などのいろいろな状況があると思う。フィンランドの学力が高いのは、どの子どもちゃんと力がつくことを教育が目指しているから。
- フィンランドでは学級の状況に応じたカリキュラムが作れるようなシステムになっている。一人ひとりの子どもに応じた学習が出来る。少人数制だからそれが出来る。
- 日本のように一斉授業では、聞いている子は聞いているけど、そうでない子は寝ている。それでは格差が広がるばかり。聞いていない子も、かつてはやる気のあった過去もあったはずが、どこかでつまづいてしまった。



先生も学力テストなどに踊らされず、授業で勝負してほしい

- 先生も学力テストなどに踊らされず、授業で勝負してほしい。充実した授業をするのが仕事。そのために時間を削って研修したり、準備をしているいろいろな教材を作ったりしてきた先生が今までいっぱいいた。
- だからこういうことで先生を忙しくさせてはいけない。
- 犬山市では、共同学習に力を入れている。子どもたちがともに考えたり、教えあったりして、本当の力がついてくる。みんなで論理的に考える。それを班別に発表して、伝える。そうして身につけた力は、学力テストでは測れない。
- 先生たちにいっぱい研修してほしい。
- 以前、校内研修に力を入れている学校のビデオを見たことがある。校長先生が校内研修を非常に大切だと考えて実践しているのだが、一人の先生の授業を教師全員で見て、その後みんなでものすごい論議をする。そこで互いに高めあっている。それが今、どれほど出来ているのか。
- どれだけ子どもをひきつけて、子どもを参加させた授業を作れるかということだ。
- 大阪で、経済的にとても困難を抱えている地域の学校で、とてもきめ細やかな対応をしている学校がある。それこそ一人ひとりの子どもの家庭訪問をくりかえしたり、放課後に補充学習をしたり…。学校全体でそういう取り組みをしている。その給食費の未納はゼロですって。先生と親がきちんと向き合っていれば、信頼関係も出来る。そこまでやらなくてはいけないというのは先生にとっては大きな負担だと思うけど。それでも必死にやっていたら、先生たちの思いは子どもたちにも、親たちにも届く。先生たちも頑張っているんだから、私たちも頑張ろうと思う。

P T A総会で学力テストについて発言

- 私は龍ヶ崎からきましたが、学力テストに関しては、今年の春休みは再三通って、学力テストを実施しないことを要請しました。もし実施するのなら番号制でやることをこんこんと言いつけました。龍ヶ崎は、県に右にならえ、国に右にならえなので、市に言うより先に文科省にいろいろ問い合わせました。そして、文科省の方針はこうとか、市に丸投げされているとか、市が個人情報のことをちゃんと考えないと文科省はかばってくれませんかとか、市に言いました。だんだん市の対応も変わってきて、本当にぎりぎりになって、番号で実施することになりました。それまではあまりP T Aに関心がなか

ったというか、子どもが通っている学校というところで、あまり自分のカラーを出してものを言うのはしんどいと思っていたので、あまり学校へ行かないでいました。ところが、学力テストについては、学校から文科省がつくったチラシが一枚来ただけだったんです。あれでは問題点が全くわからないので、皆さんに考えてもらいたいと思って、PTAの総会で発言することにしました。

どんなふうに話そうかいろいろ考えて、「先生方は目の前にいる子どもにとって悪いと思うようなことはしたくないというのが正直なところで、特に担任の先生は家庭の事情にかかわることは子どもにアンケートをとるとするのは忍びないと思う。だからそういう先生を応援できるのは親たち。教育委員会からやりますと言われたら、先生たちはやりたくなくてもやらざるを得ないわけだから、先生とともに子どもを守っていくということをみんなで考えられないでしょうか」と、そういう話をしてみました。

そうしたら、一般のお母さん方は、「新聞にそのようなことが書かれていたことにも全く気がつかなかった」とか、「どういうテストなのかも知らなかった」とか、そんな反応でした。PTAとして全く機能していないPTAで、600人の会員のうち総会に出席していたのは20名程度。これはPTAから民主的になるようにして考えていかなければならないと思って、今年は2年生の学年委員になりました。それで、

委員会の初顔合わせのときに、「PTAって本当は先生と親が子どもの教育にとって一番良いことを考えるところだってホームページなどで初めて知っただけだけど、どう思う？」と聞いたら、「そういうふうにしていきたい。子どものことが一番大事なので、みんなそう感じている」と言いました。「そういうことを大事に一年間活動しましょう」という



ことになりました。とにかく親の関心がないので、どうやって関心を引き込んで、みんなで顔を合わせられるか。親たちもいろいろな事情を抱えていろいろ大変だから、学校に来ている私たちが学校の様子を伝えられるようにしようということで、学年委員会だよりを発行することにしました。1号目は、学校の様子や校長に聞いた話や、私たちがこんな活動をしてみたいと思っているという自己紹介などを載せました。今回2号目を発行したのですが、学校とあまり敵対しないようにと思って、少しゴマすりっぽい表現をしているんですが……。それから、今度学年全体で茶話会をすることにしました。地域の公民館で、先生抜きで。それに対して、先生は悪口を言われるのではないかと心配されたのですが、「私たちは先生を支えていきたいと思っているから、その場に出てきた話がどんなことかはちゃんと伝えますから、一緒に考えていきましょう」とお話ししました。

- これだけのものを発行するのは大変だったでしょう？
- PTAの本部の人が大変でしたね。今までこういうことをやったことがないし、広報もないので…。内容についても言っていますが、「てにをは」についていろいろ言うんですね。親たちのネットワークをどうやってつくっていくか、先生をどう巻き込むか、とてもむずかしいのですが、中には頑張っている先生がいて、頑張っている先生は往々にして孤立している。だから頑張っている先生を親が応援すれば、先生も自分の方針を学校の中で言っていけると思うので、そういう先生とつながれるようにPTAでやっていきたい。時間がかかるけれど、少しずつ広がっていくといい。
- 今回の全国一斉学力テストについては、「43億円もかかるのよ、皆さんどう思う？」と

P T Aで投げかけました。親の考える力がどんどんそぎ落とされていっているようで、きちんとした情報が伝えられていないし。先生方も全然説明されていない。

- 今日の新聞記事を使うといいですね。「結果が公表されて、こんなところが問題点だと言っているけれどどうかしら」というように懇談会で話題にしたら良いのでは？
- 総会の最後のところで、「学力テストについて皆さんと一緒に考える場を作ってほしい」と発言したんですね。そうしたら「議事進行のその他のところで手を挙げなかったから、今の話は却下です」と言われたんです。「議事進行上申し訳ないが、この問題は子どもの学習権に関わる問題だし、先生にとっては教育権に関わる問題で、そういうことをP T Aとして大事にするかしないか、P T Aのあり方を問う問題だと思います」と言いました。そうしたら、他の出席者が「誰か説明できる人に説明してもらわないと、せっかく総会に出てきた意味がない」と言ったんです。それで仕方なく、校長が出てきて、「学力テストについては、教育委員会から実施するようにといわれているので、学校としてはせざるを得ないとしか言えません」と答えました。校長がこういう発言をしたのを一般の先生方が聞いていたし、帰り際「さっきの議事進行の仕方おかしかったよね」と私に聞こえるように言っていた人もいて、何かみんなの中に残るものがある話し合いになったと思いました。総会で発言したことで、ふだん知らせることの出来ない人に学力テストの問題を知らせることが出来て、良かったと思っています。